# カナダの北方

## それはツンドラと氷だけではない

ファーリー・モーワット

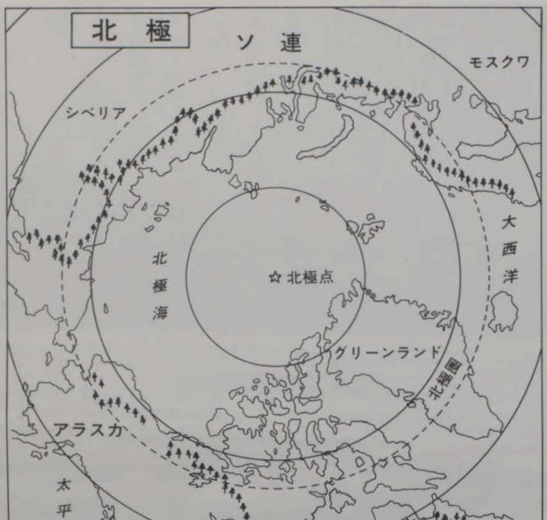
北方の実情を理解する上でまずぶつかる問題は、その「北方」がどこで始まるのかを定め、その境界をはっきりさせることだ。科学者に「北方」の定義を求めれば、たちまちボーリール（「北方の」という意味）、サブアークティック（亜北極）、アークティック・ゾーン（北極帯）、アイソサーム（等温線）、ディグリー・デイ（気温偏差日）、パーマフロスト・リミット（永久凍結土限界線）といった言葉を、うんざりするぐらい聞かされるだろう。

本当のところ、特にどこから北が北方だという境界はない。そういうものは、われわれの頭の中に存在するだけだ。これは、ロケットで打上げられた宇宙飛行士の状況に似ている。どの高さで彼は宇宙に突入するのだろうか。それはある特定の高さではない。別の世界へ入ったんだ、と彼が自分で意識するとき、彼は宇宙に突入するのだ。

南に住む大半の人々にとって、カナダを東端から西端までつないでいる針葉樹を中心とした幅広い樹林帯、すなわちタイガの北辺のどこかで、「北方」がはじまる。他の人々は、森林と北極海の間に横たわり、北極海諸島までおおっている一面の大北極平原、すなわちツンドラの南辺に、北方の起点をみる。

しかし、ツンドラとタイガの間に、はっきりと定められた境界線はない。お互いの中にとけていってしまうのだ。

この混ざり合った地域は、また、大陸の東西にきちんとのびているわけでもない。北方はまずユーコン準州の西北端、北極沿岸に近いところから、南東（北東ではない）にカーブを描き、ハドソン湾岸のチャーチルから数マイルに迫る。それから真南へ下るようにしてジェームズ湾の先端までのびたあと、方向を逆転して今度は北東へ進んでケベック・ラブラドール半島をつっきり、ラブラドールのネインに近い大西洋沿岸に達する。




ときに〝樹木線〟と呼ばれているこの線が特異な方向に動いているため、極西部ではタイガが北方を支配して、マッケンジー川の谷間から北極海までのびているのに対し、極北の東部では、オンタリオの北端にまで北極グマや北極産トナカイが生息するほど、全般的にツンドラが南へ深く入り込んでいる。

タイガと、タイガに狭まれたツンドラは、わが北方地域の陸地部分をなすもので、面積にして二百万平方マイル（およそ五百二十万平方キロ）、カナダ全土の半分以上という、膨大な大きさである。

さらに驚くべきことに、カナダの北極海沿岸は、その太平洋沿岸と大西洋沿岸を合わせたものよりも長い。カナダの北方は、ちょうど北アフリカがヨーロッパの地中海に面しているのと同じように、（陸に囲まれた本当の地中海をなしている）北極海に面しているのである。

まさかと思う向きがあるかもしれない。

しかし、アジア、ヨーロッパ、北アメリカが、お互いに、ほとんど陸地で囲まれたこの北極海をはさんで向かい合っており、また三つの大陸がここで一番近接し合っているという事実を、私たちは知っておく必要があろう。

普通の地図をみて、北極点がはるか地球の頂点になっているように思うのは、独断的であり、誤りである。本当の地球は、そういうものではない。

北極地域は、実際には北半球の中心である。またカナダの地理的中心は、チャーチルから百五十マイル（九十キロ）西北のキーワティン・ツンドラにある。つまり、私たちが北方を背にして立つと、カナダの大半だけでなく、ヨーロッパおよびアジアも私たちの背後にくることになる。

今までのところ、この厳正な事実を認識しているのは、死と破壊に関心の強い軍人のみである。カナダ人に、もしも北方のもつ平和的意義を察知するだけの分別ができれば、これまでのようにアメリカ合衆国の裏門でゴマをする衛星国にとどまることなく、（世界の）中心に位置する国になれるかもしれないのである。

北方について中々消えない誤解のひとつは、ただ殺風景な凍結した海が一面に広がっているだけだとか、そのほかにはせいぜい凍った森林とツンドラの荒野があるだけだ、ということである。北方は地球上のいかなる大自然界にも劣らないほど多様性に富む、というのが真実だ。

中央ラブラドール沿岸からエルズミア島へと北上する、カナダ楯状地（たてじょうち）の上向きに褶曲した東端は、氷河と小木におおわれた山脈をなしていて、その偉容さはカナディアン・ロッキーのどの連山と比べても遜色はない。北米の東部には、これら